

三里塚・ジェット闘争貫徹「国鉄35万人体制」粉碎！ 動労千葉弁護団が 抗議の申し入れと記者会見を行なう

警察はデッチ上げ告訴による 不当捜査を中止せよ！

動労千葉弁護団の葉山、三上、渡辺弁護士と西森法対部長、中江昌夫氏は、六月二十九日、船橋警察署ならびに千葉県警本部に対して、動労「本部」が六・一二暴行事件なるものをデッチあげて動労千葉組合員・役員十名を告訴・告発したことについて、「警察権力はかかる明らかなデッチあげにもとづく不当介入・捜査をただちに中止せよ」との嚴重な抗議の申し入れを行い、その後、記者クラブにおいて、記者会見をおこなった。記者会見には、八社の記者が参加し熱心な質問とメモがとられ、あらためて、動労「本部」一権力の一体となった卑劣な動労千葉への組織破壊策動の実体が暴露されていた。

千葉県警ならびに船橋署に 不当捜査中止を要求！

弁護団と西森、中江両氏は、不当捜査を弾劾し、即時中止を要求する申し入れ書をたずさえ、二十九日十時、船橋署に出むいた。対応に出た船橋署・森田警備課長は、動労千葉と弁護団の怒りにみちた敵正な追及にオロオロし、まともに答えることもできず、彼らのデッチあげと不当弾圧の意図を次々と自己暴露しつつも、ただただ「捜査中止を申し入れた文書はうけとれない」と硬く逃げまわろうとしたのである。しかし弁護団は毅然とした態度をもって以下の内容を嚴重に申し入れ通告したのである。

- 一、弁護団が入手した事実経過に関する情報によれば、嶋田誠らの告訴・告発は、六月十二日当日にあった事実と大巾に食い違いが情報に基づくものである。船橋署による今日までの千葉鉄道管理局関係者からの事情聴取の結果によってもそのことはもはや充分に明らかになっていることである。
- 二、船橋署の捜査自体が国鉄労使関係、国鉄内労組関係に対する明らかな不当介入である。現在、国鉄当局は「三五万人体制」を実現すべく、労組への懐柔―不当労働行為等を強め、とりわけ動労千葉に対する攻撃をこの間集中的に強化してきた。一方、それと軌を一にして、本件の告発人である動労「本部」は、これまでも動労千葉に対して圧倒的多数の人員をくり出し様々な暴力的攻撃をくり返し仕掛けてきている。
- 三、その典型的な一例としてある「七九年四・一七津田沼襲撃事件」では、片岡支部長が右側頭

骨々折の重傷を負わされたことは、所轄担当署である船橋署が一番よく承知・現認してきている事でもある。しかし、われわれはかかる問題はあくまで労使間、組合間で解決すべき事柄で、権力が介入するすじあいのものでは断じて無いと考える。にもかかわらず、もし船橋署が六・一二なる一方的なデッチあげ告訴を理由に不当な介入・捜査等を強行するならば、国鉄当局及び動労「本部」の動労千葉攻撃に共助・助力することとなり、警察権行使の大原則とされた政治的中立・民事不介入を逸脱するものである。事件捜査を直ちに中止せよと要求し、「申し入れ文書」をつきつけたのである。その後、十一時二〇分すぎには千葉県警本部にもむき、同様の主旨の嚴重な抗議と申し入れを貫徹したのである。

抗議の記者会見で不当性を明らかにする

十一時四五分から行なわれた記者会見では、始めに葉山弁護士が、動労「本部」による「六・一二暴行事件」デッチあげ告訴は極めてズサンかつデタラメなものである、警察権力が労・労問題に介入することは不当であり、動労千葉弁護団は総力をあげて闘うことを明らかにした。さらに中野書記長が、デッチあげ告訴の具体的事実を刻明に明らかにし、闘う労働組合に動労千葉を権力に売り渡すという、総評系労働運動の歴史にかつてない卑劣な反階級的な暴挙を弾劾した。そして、弾圧組織破壊攻撃をかけてくるならば断固として反撃の闘いに決起する、すでにその体制を確立している。と、動労千葉千三百名一丸となった闘争の決意と方針を明らかにして記者会見を終了した。怒りも新たに、今こそ八〇年代を切り拓く動労千葉の底力をとき放って総決起しよう！

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！

速報
6月29日、動労千葉銚子支部結成大々的！
六月二十九日、銚子運転区講習室において、「本部」派の分裂策動を排して、ついに動労千葉銚子支部が、最も先進的に闘う二〇名の仲間の結集・決起をもって結成された。新たな闘う銚子の仲間をつつみ、さらに銚子支部組織強化・拡大へと前進しよう！ (詳報次号)